

昭和大学病院麻酔科専門研修プログラム

1. 専門医制度の理念と専門医の使命

① 麻酔科専門医制度の理念

麻酔科専門医制度は、周術期の患者の生体管理を中心としながら、救急医療や集中治療における生体管理、種々の疾病および手術を起因とする疼痛・緩和医療などの領域において、患者の命を守り、安全で快適な医療を提供できる麻酔科専門医を育成することで、国民の健康・福祉の増進に貢献する。

② 麻酔科専門医の使命

麻酔科学とは、人間が生存し続けるために必要な呼吸器・循環器等の諸条件を整え、生体の侵襲行為である手術が可能のように管理する生体管理医学である。麻酔科専門医は、国民が安心して手術を受けられるように、手術中の麻酔管理のみならず、術前・術中・術後の患者の全身状態を良好に維持・管理するために細心の注意を払って診療を行う、患者の安全の最後の砦となる全身管理のスペシャリストである。同時に、関連分野である集中治療や緩和医療、ペインクリニック、救急医療の分野でも、生体管理学の知識と患者の全身管理の技能を生かし、国民のニーズに応じた高度医療を安全に提供する役割を担う。

2. 専門研修プログラムの概要と特徴

手術麻酔からペインクリニック、集中治療、無痛分娩まで幅広い研修が可能です。手術室内のみならず、手術室の外でも周術期診療に横断的にコミットできる外科系総合医としての麻酔科医養成を目指しています。

- 東京・横浜にある昭和大学の4附属病院と専門性に秀でた医療機関とが連携し、都市部の病院を中心に、心臓麻酔、胸部麻酔、小児麻酔、産科麻酔などの多彩な症例を数多く経験できる麻酔科研修です。
- ペインクリニック、集中治療のローテーションは全員が経験します。希望者には学医取得や海外学会での発表などの道も開かれています。
- 当コースには女性医師も多く、出産や子育てを行いながらキャリアを積めるような配慮がされています。

昭和大学の麻酔科専門研修を通じて人生の選択肢を広げてみませんか？

コースの特徴

- 大学病院が専門病院としっかり連携しているため、多様な専門性を持つ指導者がそろっていることが特徴です。
- ペインクリニック、集中治療のローテーションは必須(希望者は無痛分娩、緩和医療も)のため、手術室外での臨床経験も積むことができます。

- 手術麻酔に分野別の専門家がだけでなく、ペインクリニック、産科麻酔、集中治療の領域にも国内外で著名な指導者がおり手厚い指導が受けられます。
- 超音波ガイド下神経ブロックや人工呼吸、循環管理、産科麻酔などでは、世界最先端の技術に触れることができ、専門医取得後もサブスペシャリティを確立する機会に多く恵まれています。
- 遠隔技術と映像と映像システムを駆使して医療の質を管理しているので、安心して研修を行えます。
- 若いうちからの海外経験を重視し、海外での学会発表、海外病院への視察ができるように指導を行います。
- 希望者は学位取得を目指して、大学院への進学が可能です。大学院コースを選択して臨床に従事しながら臨床研究を進めるのであればその期間は専門研修期間として扱われます。
- 多様な専門家の指導を受けながらプロフェッショナルとして自分のやりたいことを見つけられる支援体制が本コースの特徴です。

本研修プログラムでは、専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修の到達目標を達成できる専攻医教育を提供し、十分な知識・技術・態度を備えた麻酔科専門医を育成する。麻酔科専門研修プログラム全般に共通する研修内容の特徴などは別途資料「麻酔科専攻医研修マニュアル」に記されている。

3. 専門研修プログラムの運営方針

周囲から信頼され、患者の「命を守る」麻酔科医を育成することがプログラムの運営方針です。

常に予期せぬことが起こりえる医療現場において患者の命を守るには、しっかりとした事前準備に加えて多様性、柔軟性を備えた「不用意の用意」の心と、チーム医療においてリーダーシップを発揮できる高い倫理観や豊かな人間性が不可欠です。本プログラムではそれぞれの高度専門施設での臨床経験を通じて、上記の資質を段階的に養い、患者の命の最後の砦となれる麻酔科医を育成できる教育体制を提供します。

カリキュラムの前半で、昭和大学病院を始めとした附属病院を中心に一般的な知識・技術を習得したのち、後半に連携する専門医療施設などで多彩な経験を積むことができます。手術麻酔だけでなく、ペインクリニック、集中治療、希望者には無痛分娩や緩和医療の研修を一定期間行います。ローテーションは各専攻医の希望に沿ったオーダーメイドのものとなります。下記の例を参照してください。

また、半年ごとに指導者とのフィードバック面談を行い、専攻医ひとりひとりの成長に合わせた教育体制をとります。

- 原則として、研修期間中、少なくとも1年間は専門研修基幹施設で研修を行います。
- 研修内容・進行状況に配慮して、プログラムに所属する全ての専攻医が経験目標に必要な特殊麻酔症例数を達成できるように、ローテーションを構築します。
- すべての領域を満遍なく回るローテーションを基本としますが、小児診療を中心に学びたい者へのローテーション（後述のローテーション例B）、ペインクリニックを学びたい者へのローテーション（ローテーション例C）、集中治療を中心に学びたい者へのローテーシ

ン（ローテーション例D）など、専攻医のキャリアプランに合わせたローテーションも考慮します。

- 地域医療の維持のため、最低でも3ヶ月以上は地域医療支援病院である連携施設で研修を行います。

研修実施計画例

	A（標準）	B（小児 重点）	C（心臓 重点）	D（集中治療重点）
初年度 前期	昭和大学病院	昭和大学病院	昭和大学病院	昭和大学病院
初年度 後期	昭和大学病院	昭和大学病院	昭和大学病院	昭和大学病院
2年度 前期	昭和大学病院 （ペイン）	関連病院	関連病院	昭和大学病院 （ペイン）
2年度 後期	昭和大学病院	関連病院	昭和大学病院 （ペイン）	関連病院
3年度 前期	関連病院	関連小児医療機関	関連病院 （心臓）	昭和大学病院 （集中治療）

3年度 後期	関連病院	関連小児医療機関	関連病院 （心臓）	昭和大学病院 （集中治療）
4年度 前期	昭和大学病院 （集中治療）	昭和大学病院 （集中治療）	昭和大学病院 （集中治療）	関連病院
4年度 後期	昭和大学病院	関連病院 （ペイン）	関連病院	昭和大学病院

週間予定表

昭和大学病院麻酔ローテーションの例

	月	火	水	木	金	土	日
午前	手術室	手術室	手術室	手術室	ICU	ペイン	休み
午後	手術室	術前外来	手術室	休み	ICU	休み	休み
当直			当直				

4. 研修施設の指導体制

① 専門研修基幹施設

昭和大学病院

認定病院番号	:	33
研修実施責任者	:	大江 克憲
専門研修指導医	:	大江 克憲 (心臓麻酔) 加藤 里絵 (産科麻酔・手術麻酔) 小谷 透 (集中治療) 岡本 健一郎 (緩和医療・ペインクリニック) 米良 仁志 (ペインクリニック) 三浦 倫一 (臨床麻酔) 増井 健一 (静脈麻酔・ファーマコメトリクス) 尾頭 希代子 (手術麻酔・心臓麻酔) 細川 幸希 (産科麻酔) 高木 美沙 (手術麻酔) 小林 玲音 (ペインクリニック・手術麻酔) 西木戸 修 (緩和医療・ペインクリニック) 庄野 敦子 (集中治療) 市川 ゆき (集中治療) 田中 典子 (区域麻酔) 樋口 慧 (手術麻酔) 亀田 奈々 (手術麻酔) 大杉 枝里子 (手術麻酔)

特徴

手術症例が豊富で専門医取得に必要な特殊症例を当施設で経験できます。

手術麻酔に加えて集中治療、ペインクリニック、無痛分娩、緩和医療のアクティビティも高く、サブスペシャリティの研修も可能です。食道手術や肝臓手術の技量が高く、いわゆる大外科手術の麻酔経験を豊富に積めます。心臓血管外科は、成人と小児の両方を数多く行っており、最新のステンドやデバイスの手術も経験できます。超音波ガイド下肢抹消神経ブロックによる術後鎮痛も積極的に行い、多職種参加の周術期外来も開設しており、麻酔科医に必要な周術期管理をバランス良く取得できます。

② 専門研修連携施設A

杏林大学医学部付属病院

認定病院番号	:	147
研修実施責任者	:	萬 知子
専門研修指導医	:	萬 知子 (手術麻酔全般・医療安全) 鎮西 美栄子 (緩和医療) 徳嶺 譲芳 (手術麻酔全般・医療安全) 森山 潔 (集中治療) 関 博志 (手術麻酔全般・周術期管理) 中澤 春政 (心臓麻酔・術後鎮痛) 鶴澤 康二 (手術麻酔全般) 小谷 真理子 (集中治療) 小澤 真紀 (手術麻酔全般) 田口 敦子 (小児麻酔) 神山 智幾 (集中治療) 本保 晃 (周術期管理・産科麻酔) 箱根 雅子 (小児麻酔・産科麻酔)
専門医	:	竹内 徳子 (手術麻酔全般) 安藤 直朗 (手術麻酔全般) 朽名 佳代子 (手術麻酔全般) 辻 大介 (心臓麻酔) 田渕 沙織 (小児麻酔) 和田 望 (手術麻酔全般)

特徴 : 年間7,000件麻酔科管理症例があり、麻酔科専門医として必要な手術症例を偏りなく経験できる。ロボット補助下手術や循環器疾患の血管内治療など先進医療の麻酔管理を経験することができる。

国立成育医療研究センター

認定病院	:	87
研修実施責任者	:	鈴木康之
専門研修指導医	:	鈴木康之 (小児麻酔・集中治療) 大原玲子 (産科麻酔) 糟谷周吾 (小児麻酔) 佐藤正規 (産科麻酔) 蜷川 純 (小児麻酔)

山下陽子（産科麻酔）
行正 翔（小児麻酔）
馬場千晶（小児麻酔）
宮坂清之（小児麻酔）
古田真知子（小児麻酔）
松永 渉（産科麻酔）
浦中 誠（小児麻酔）
橋谷 舞（小児麻酔）
阿部真友子（産科麻酔）
伊集院亜梨紗（産科麻酔）
専門医 : 時任剛志（小児麻酔）
竹内洋平（小児麻酔）
清水 薫（麻酔・集中治療）
一柳弘希（小児麻酔）

特徴

- ・国内最大の小児・周産期施設であり、胎児、新生児、小児、先天性疾患の成人麻酔、産科麻酔（無痛分娩管理を含む）および周術期管理を習得できる。
- ・国内最大の小児集中治療施設を有し、小児救急疾患・重症疾患の麻酔・集中治療管理を習得できる。
- ・小児肝臓移植（生体、脳死肝移植）、腎移植の麻酔、周術期管理を習得できる。
- ・小児がんセンターがあり、小児緩和医療を経験できる。
- ・臨床研究センターによる臨床研究サポート体制があり研究環境が整っている。

がん研究会有明病院（がん研有明病院）

認定病院番号 : 779
研修実施責任者 : 寺嶋 克幸
専門研修指導医 : 横田 美幸（麻酔、集中治療）
関 誠 （麻酔、ペインクリニック）
平島 潤子（麻酔）
七松 恭子（麻酔）
山本 理恵（麻酔）
蛭名 稔明（麻酔）
三木 美津子（麻酔）
大里 彰二郎（麻酔）
山内 章裕（麻酔）
松本 麻理（麻酔）

山崎 恭子 (麻醉)
宮崎 恵美子 (麻醉)
尾崎 由佳 (麻醉)
吉岡 清佳 (麻醉)
萬羽 礼実 (麻醉)
広山 万希子 (麻醉)
柏井 朗宏 (麻醉)

特徴 : がん専門病院としての先進的な医療と豊富な症例、及び
麻酔・手術、そして周術期管理、ICU・ペインクリニック・緩和の研修も可能

日本赤十字社医療センター

認定病院番号 : 76
研修実施責任者 : 柄澤 俊二
専門研修指導医 : 柄澤 俊二 (麻醉)
諏訪 潤子 (麻醉、小児麻酔)
渡辺 えり (麻醉、ペインクリニック)
齋藤 豊 (集中治療、麻酔)
大塚 尚実 (集中治療、救急、麻酔)
林 南穂子 (麻酔、集中治療、小児麻酔)
岩山 香坂 (麻酔、心臓血管麻酔、小児麻酔)
渡邊 健司 (麻酔、心臓血管麻酔)

特徴 : がん診療、小児・周産期医療、救命救急及び災害救護を担う、地域の中核施設としての環境と、出身大学や初期研修施設が多岐に渡る常勤医師、近隣の大学病院からの非常勤嘱託医師による充実した指導体制の下で、先天性心疾患、小児、産科、胸部外科、脳神経外科を含む十分な麻酔症例と集中治療症例を研鑽することができます。

公益財団法人東京都保険医療公社荏原病院

認定病院番号 : 792
研修実施責任者 : 加藤 隆文
専門研修指導医 : 加藤 隆文 (麻酔, ペインクリニック)
小寺 志保 (麻酔, ペインクリニック)
中村 繭子 (麻酔, ペインクリニック)

中島 愛 (麻醉)
須賀 大樹 (麻醉)
専門医 : 片山 彩美 (麻醉)
吉田 洋介 (麻醉)

特徴

当院には総合脳卒中センターがあり地域の急性期の脳血管疾患医療の中核となっている。脳神経外科の他、11の診療科に対応しており、偏りのない麻醉管理が経験できる。緊急手術も多く、救急診療における麻醉管理を学べる。

また当院ではICU専従医師を麻醉科が毎日担っており、症例は限られるが集中治療管理を学べる。

小児外科、心臓血管外科などの当院で経験できない麻醉管理は専門研修連携施設で研修を行いより専門的な知識と経験を得られるようにしている。

当院は都内で4か所しかない第一種感染症指定医療機関の一つであり、2020年初頭からCOVID-19感染症患者を積極的に受け入れてきた。麻醉科は感染症科に協力し重症呼吸不全管理や集中治療管理に積極的にかかわりパンデミック下の地域医療に大きな役割を果たしている。

当院は日本ペインクリニック学会の研修指定施設であり、学会専門医をとることが可能である。

また当院は日本緩和医療学会認定研修施設で、麻醉科も緩和ケアチームに参加してお緩和ケアを学べる。

東京労災病院

認定病院番号 : 262
研修実施責任者 : 本多 信雅
専門研修指導医 : 本多 信雅 (手術麻醉)
伊達 久子 (手術麻醉)

特徴 : 一般の手術麻醉

社会医療法人財団仁医会 牧田総合病院

認定病院番号 : 994
研修実施責任者 : 大竹知子
専門研修指導医 : 甫母章太郎 (麻醉、区域麻醉)
指導医 : 赤井良太 (麻醉)
小林秀嗣 (麻醉、集中治療)

特徴 : 脳卒中センター、脊椎センター有 手術件数多数 緊急手術多数

東京都済生会中央病院

認定病院番号 : 978
研修実施責任者 : 加藤 類
専門研修指導医 : 加藤 類 (麻酔全般・心臓麻酔・ペインクリニック)
佐藤 暢一 (麻酔全般・集中治療)
長谷川 優子 (麻酔全般・小児麻酔)
奥 和典 (麻酔全般・小児麻酔)
天津 裕子 (麻酔全般)
鈴木 陽 (麻酔全般)

特徴

済生会中央病院は大正4年開院の済生会芝病院を前身とし、東京都港区中央部に位置する地域中核病院である。

当院は35の診療科を備えた総合病院であり、麻酔科専門研修においては一般外科、心臓血管外科、呼吸器外科、脳神経外科、整形外科、血管外科、産婦人科、泌尿器科、TAVI(経カテーテル大動脈弁植え込み術)など幅広い症例の麻酔管理を研修することが可能である。また当院は東京都指定の三次救急医療機関かつ災害拠点病院であり、多数の救急搬送患者を受け入れている。そのため多くの緊急手術や重症患者の麻酔管理を経験することができる。麻酔で使用する機器も充足しており神経ブロックや経食道エコーの症例数も豊富である。

手術麻酔以外では手術前外来、ペインクリニック外来を開設しており、集中治療、和痛分娩、緩和医療などの業務も担っている。希望に応じてこれらの麻酔科関連領域の研修も可能である。

当院の麻酔科専門研修プログラムにおいては、1・2年次は当院で全般的な麻酔研修を指導医とともに行う。当科は特定の大学病院医局の関連施設ではないが、研修関連施設には小児麻酔、小児心臓麻酔、心臓麻酔の症例数が多い病院が含まれており、3・4年次は個人の希望に応じてそれらの施設で特定の分野の専門研修を行う事が可能である。

自衛隊中央病院

認定病院番号 : 16
研修実施責任者 : 太尾田正彦
専門研修指導医 : 有村信也 (手術麻酔)
太尾田正彦 (手術麻酔)
板倉紗也子 (手術麻酔・ペインクリニック)
専門医 : 塩野晋之介 (手術麻酔・心臓麻酔)

特徴

:

自衛隊内で中心的な役割を果たす最終後送病院。オープン化により地域医療にも貢献しており、2次救急指定病院でもある。病院の特性上、有事および各種事態に備え、大量傷者訓練等実施している。

昭和大学横浜市北部病院

認定病院番号 : 928
研修実施責任者 : 信太 賢治
専門研修指導医 : 信太 賢治 (麻酔全般・ペインクリニック)
山田 新 (麻酔全般)
木ノ内 万里子 (麻酔全般)
坂本 篤紀 (麻酔全般・心臓麻酔・小児麻酔)
山村 彩 (麻酔全般)
釋尾 知春 (麻酔全般・経食道心エコー)
高橋 健一 (麻酔全般・心臓麻酔・小児麻酔)
栗倉 英恵 (麻酔全般・小児麻酔)
大橋 みどり (麻酔全般)
木村 麻美 (麻酔全般)
荘田 博朗 (麻酔全般)

特徴

:

手術麻酔では外科系各科のバランスのとれた豊富な症例数があるため、当院だけでも麻酔科専門医試験に必要な症例数を担当することができます。病院毎の手術症例の違いやサブスペシャリティ領域としての集中治療やペインクリニックの研修を含めて、昭和大学病院麻酔科を初めとした多彩な連携病院でオーダーメイドのローテーションを行います。

医療法人徳洲会 湘南藤沢徳洲会病院 (以下、湘南藤沢徳洲会病院)

研修実施責任者 : 福井 公哉
専門研修指導医 : 福井 公哉 (臨床麻酔・集中治療)
岡崎 薫 (臨床麻酔)
今永 和幸 (心臓麻酔)
木村 信康 (ペインクリニック)
森川 朋子 (臨床麻酔、ペインクリニック)
増田 清夏 (ペインクリニック)
小澤 寛子 (臨床麻酔)
日野 智子 (臨床麻酔)

専門医 : 須貝 隆之 (心臓麻酔)
: 関口 由香里 (臨床麻酔)
長谷 知美 (心臓麻酔)
村尾 芙美 (臨床麻酔)
樋口 裕樹 (臨床麻酔)

日本麻酔科学会麻酔科認定病院 第879号

特徴：救急医療に力を入れている総合病院である。一般的な手術症例は、偏りが少なく、心臓麻酔、産科麻酔、小児麻酔、ロボット支援下手術も経験することができる。神経ブロックなどの区域麻酔も積極的に行っている。手術室外では、経食道心エコー検査に従事しており、経験を積める。集中治療、ペインクリニック研修も配慮することが可能である。

岡山大学病院

認定病院番号 : 23
研修実施責任者 : 岩崎 達雄
専門研修指導医 : 森松 博史 (麻酔, 集中治療)
岩崎 達雄 (麻酔, 集中治療)
小林 求 (麻酔, 集中治療)
賀来 隆治 (麻酔, 集中治療, ペインクリニック)
谷西 秀紀 (麻酔, 集中治療)
清水 一好 (麻酔, 集中治療)
松岡 義和 (麻酔, 集中治療)
松崎 孝 (麻酔, 集中治療, ペインクリニック)
谷口 新 (麻酔, 集中治療)
金澤 伴幸 (麻酔, 集中治療)
鈴木 聡 (麻酔, 集中治療)
谷 真規子 (麻酔, 集中治療, 医学教育)
小坂 順子 (麻酔, 集中治療)
黒田 浩佐 (麻酔, 集中治療)
中村 龍 (麻酔, 集中治療)
荒川 恭佑 (麻酔, 集中治療, ペインクリニック)
岡原 修司 (麻酔, 集中治療)
岡崎 信樹 (麻酔, 集中治療)
木村 聡 (麻酔, 集中治療)
清水 達彦 (麻酔, 集中治療)
片山 明 (麻酔, 集中治療)

武藤 典子（麻酔，集中治療，ペインクリニック）

依田 智美（麻酔，集中治療）

専門医 : 佐倉 考信（麻酔，集中治療）

妹尾 悠祐（麻酔，集中治療，ペインクリニック）

成谷 俊輝（麻酔，集中治療）

特徴 :

小児心臓手術や臓器移植手術（心，肺，肝，腎）などの高度先進医療に加えて，小児麻酔，食道手術や呼吸器外科手術における分離肺換気など特殊麻酔症例も数多く経験できる．また麻酔のみならず，小児を含む集中治療（30床），ペインクリニックの研修も可能である．また周術期管理センターが確立しており，多職種による周術期チーム医療システムを学ぶこともできる．

広島市立広島市民病院

認定病院番号 : 170

研修実施責任者 : 藤中和三

専門研修指導医 : 藤中和三（麻酔、集中治療、心血管麻酔）

市場稔久（救急、集中治療）

大宮浩揮（麻酔、心血管麻酔）

高田由以子（麻酔）

後藤隆司（麻酔、集中治療、心血管麻酔）

寺田統子（麻酔、集中治療、心血管麻酔）

宮本将（麻酔、集中治療、小児麻酔）

田窪一誠（麻酔、集中治療、心血管麻酔）

橘薫（麻酔、集中治療）

松本森作（麻酔、集中治療、心血管麻酔）

木戸浩司（麻酔、集中治療）

上野原淳（麻酔、集中治療、心血管麻酔）

菊地佳枝（麻酔）

石田有美（麻酔）

羽間恵太（麻酔、集中治療）

米澤みほこ（麻酔、心血管麻酔）

特徴 :

小児心臓手術を含めた循環器疾患・各科がん手術・周産期症例が豊富で、手術症例数は中四国で一二を争う数です。ICUはクローズドで麻酔

科医が主治医機能を持ち、主体的治療研修が可能です。救命センターにおける集中治療も行っており救急疾患経験も積めます。

島根大学医学部付属病院

認定病院番号 : 202
研修実施責任者 : 齊藤 洋司
専門研修指導医 : 齊藤洋司 (麻酔、集中治療、ペインクリニック、緩和ケア)
佐倉伸一 (手術部、麻酔)
今町憲貴 (麻酔)
二階哲朗 (集中治療)
豊田浩作 (麻酔)
橋本龍也 (緩和ケア、ペインクリニック)
三原亨 (集中治療)
本岡明浩 (麻酔)
大田淳一 (集中治療、麻酔)
横井信哉 (麻酔)
橋本愛 (麻酔)
蓼沼佐岐 (麻酔)
森英明 (麻酔、集中治療)

専門医 : 和田讓 (集中治療)
片山望 (麻酔、集中治療)
榊原賢司 (麻酔、ペインクリニック)
山本花子 (麻酔、ペインクリニック)
平林政人 (麻酔、集中治療)
青山由紀 (麻酔、集中治療)
太田絢子 (麻酔)
中路佳美 (麻酔)
上田愛瑠萌 (麻酔、集中治療)
松尾輝政 (麻酔)

特徴 : 麻酔管理では全ての特殊麻酔症例、超音波ガイド下末梢神経ブロックを用いた症例、高度先進医療であるロボット手術、外傷センター開設に伴う緊急外傷手術などを多く経験できる。また、集中治療、ペインクリニック、緩和ケアも選択をすることが可能である。これらの領域を通して、広く多面的に麻酔科学の基本である全身管理の専門的知識、技能を習得できることが本施設の特徴である。

自治医科大学医学部附属病院

認定病院番号 : 105

研修実施責任者 : 竹内 護

専門研修指導医 : 竹内 護 (小児麻酔, 心臓麻酔)

讃井将満 (集中治療)

鈴木昭広 (周術期管理, モニタリング, 超音波検査)

五十嵐孝 (ペインクリニック, 産科麻酔)

多賀直行 (小児麻酔, 小児集中治療)

佐藤正章 (蘇生学, 医学教育)

堀田訓久 (ペインクリニック, 区域麻酔)

末盛智彦 (小児集中治療, 心臓麻酔)

永野達也 (小児麻酔, 小児集中治療)

島田宣弘 (ペインクリニック, 緩和ケア)

永川敦士 (心臓麻酔)

篠原貴子 (小児麻酔)

方山加奈 (手術麻酔)

須藤智幸 (手術麻酔)

佐多奈歩 (集中治療)

専門医 : 菊地紘彰 (手術麻酔), 山本令子 (手術麻酔),
原鉄人 (手術麻酔, 集中治療), 藤田裕壮 (手術麻酔),
山田衣璃 (手術麻酔), 山田希生 (手術麻酔),
中田翔 (手術麻酔), 小川薫 (手術麻酔),
中村美織 (手術麻酔), 田中諒子 (手術麻酔)
山田高嗣 (手術麻酔)

特徴 : 当院は全国初の大学病院併設型の子ども医療センターを有し, 周産期母子センター, 救急救命センター, がん拠点病院といった多数の機能を有している. そのため経験できる症例は実に幅広い. 当院で研修を行い同期と症例を共有することで体得される知識と技術は, 教科書や文献では決して得られない貴重なものになるだろう.

③ 専門研修連携施設B

東邦大学医療センター大森病院

認定病院番号 : 71

研修実施責任者 : 武田 吉正

専門研修指導医 : 武田 吉正 (麻酔, 集中治療, 区域麻酔)

聖路加国際病院

- 認定病院番号 : 249
- 研修実施責任者 : 阿部 世紀
- 専門研修指導医 : 阿部世紀 (麻酔、小児麻酔)
藤田信子 (麻酔、心臓麻酔、産科麻酔)
林督人 (麻酔、区域麻酔、産科麻酔)
佐久間麻里 (麻酔、救急)
林怜史 (麻酔、心臓麻酔)
篠田麻衣子 (麻酔、区域麻酔、ペインクリニック)
菅波梓 (麻酔、産科麻酔)
早坂知子 (麻酔)
- 専門医 : 小山杏奈 (麻酔、区域麻酔、ペインクリニック、産科麻酔)
金子拓人 (麻酔、心臓麻酔)
山口慧太郎 (麻酔、ペインクリニック)
井上真由子 (麻酔、心臓麻酔)

特徴 :

当院の手術室は14室あり、心臓外科、小児外科、胸部外科、腹部外科、脳神経外科、産科麻酔、無痛分娩、また先端医療（TAVI、Da Vinci手術など）も含めた幅広い症例が経験できる。更に麻酔科専門医受験資格に必要な症例も当院のみで経験可能である。

挿管・硬膜外カテーテル留置・中心静脈カテーテル留置、神経ブロックなど、様々な手技を習得し、合併症のある症例の麻酔も上級医の指導のもと独立して担当できる。心臓血管麻酔・産科麻酔など、将来サブスペシャリティー領域へ進む足がかりとなるトレーニングが受けられる。

東京都立小児総合医療センター

- 認定病院番号 : 1468
- 研修実施責任者 : 西部 伸一
- 専門研修指導医 : 西部 伸一 (小児麻酔、心臓血管麻酔)
山本 信一 (小児麻酔、心臓血管麻酔、区域麻酔)
北村 英恵 (小児麻酔)
箕島 梨恵 (小児麻酔)
佐藤 慎 (小児麻酔、区域麻酔、心臓血管麻酔)
伊藤 紘子 (小児麻酔)

特徴 : 地域における小児医療の中心施設であり、治療が困難な高度専門医療、救命救急医療、こころの診療を提供している。

年間麻酔管理件数が4000件と症例数が豊富で、一般的な小児麻酔のトレーニングが可能なことに加えて、積極的に区域麻酔を実施しており、超音波エコー下神経ブロックを指導する体制が整っている。また、2019年度より心臓血管麻酔専門医認定施設となっている。

昭和大学江東豊洲病院

認定病院番号 : 1182
研修実施責任者 : 鈴木 尚志
専門研修指導医 : 鈴木尚志 (手術麻酔)
大塚直樹 (手術麻酔)
森 麻衣子 (集中治療)
佐野仁美 (手術麻酔、産科麻酔)

特徴 : 急性期医療に特化した大学病院の分院であり外科系全科を擁している。

昭和大学藤が丘病院

認定病院番号 : 165
研修実施責任者 : 桑迫 勇登
専門研修指導医 : 桑迫 勇登 (麻酔, 集中治療)
岡安 理司 (麻酔)
木村 真也 (麻酔)

特徴 :
神奈川県横浜市南区北部地域における急性期中核病院である。
小児麻酔は形成外科症例が中心であるが、挿管困難症例が多い。
脳神経外科、心臓血管外科症例は血管内治療症例を多く研修でき、
また3次救急センターを併設しているため、救急症例についても多く研修することが可能である。

自治医科大学付属さいたま医療センター

認定病院番号 : 961
研修実施責任者 : 讃井 将満
専門研修指導医 : 讃井 将満 (集中治療)
大塚 祐史 (麻酔・心臓手術麻酔)
飯塚 悠祐 (麻酔・集中治療)
松野 由衣 (麻酔・ペイン)

後藤 卓子（麻酔・緩和ケア・ペイン）
瀧澤 裕（緩和ケア・ペイン）
佐藤 和歌子
吉永 晃一

特徴

当センターは、大学付属病院でありながらも、地域の急性期病院として、大きな役割を果たしています。

また、600病床程度の中規模医療機関であるため、診療間の垣根が低く、コメディカルとの連携も良好です。

心臓大血管手術、呼吸器外科手術が多いことも、特徴の一つです。

独立型のICUでは、機械的補助循環の管理なども豊富に経験出来ます。

埼玉県立小児医療センター

認定病院番号 : 399
研修実施責任者 : 蔵谷 紀文
専門研修指導医 : 蔵谷 紀文
佐々木 麻美子
濱屋 和泉
古賀 洋安
大橋 智
駒崎 真矢
石田 佐知
河邊 千佳

特徴 : 平成28年末に埼玉新都心に新設移転しました。交通至便、令和元年より生体肝移植を開始。心臓血管麻酔学会認定施設です。

千葉メディカルセンター

認定病院番号 : 1429
研修実施責任者 : 三枝 宏彰
専門研修指導医 : 三枝 宏彰（手術麻酔，心臓麻酔，集中治療）
平井 えい子（手術麻酔，ペインクリニック）
安部 充仁（手術麻酔，ペインクリニック）
工藤 良平（手術麻酔）
熊切 由美子（手術麻酔）

川真田 美和子（手術麻酔）

特徴 :

一般的な外科手術麻酔だけでなく、血管内治療も含めた心血管系の症例を比較的多く経験することができ、体外循環使用例では体外循環管理も麻酔科が積極的に関与をしており、体外循環についても豊富に研鑽を積むことができる。さらに、緊急症例が豊富なため術中管理のみならず、ICU管理の経験を含めた麻酔科医に必要な広範囲の研修が可能である。また、術後経過向上のため積極的な術後鎮痛にも取り組んでおり、様々な考えの鎮痛法も研修することができる。

東京ベイ・浦安市川医療センター

認定病院番号 : 1612
研修実施責任者 : 小野寺 英貴
専門研修指導医 : 小野寺 英貴(麻酔)
深津 健(麻酔)
日下部 良臣(麻酔)
石橋 智子(麻酔)
山口 直城(麻酔)

特徴 : 高齢者医療・救急医療・小児医療・周産期医療を診療の重点とし、地域医療に根差した救急拠点病院。

静岡済生会総合病院

認定病院番号 : 293
研修実施責任者 : 山本 典正
専門研修指導医 : 山本 典正 (麻酔)
小柴 真一 (麻酔)

専門医 : 小柴 優美 (麻酔)

特徴 : 静岡市駿河区唯一の総合病院、二次・三次救急医療施設

5. 専攻医の採用と問い合わせ先

① 採用方法

専攻医に応募する者は、日本専門医機構に定められた方法により、期限までに（2021年9月ごろを予定）志望の研修プログラムに応募する。

② 問い合わせ先

本研修プログラムへの問い合わせは、昭和大学麻酔科専門研修プログラムwebsite、電話、e-mail、郵送のいずれの方法でも可能である。

昭和大学病院 麻酔科

連絡担当者：豊嶋 里沙

〒142-8666

東京都品川区旗の台1-5-8

TEL 03-3784-8575, FAX 03-3784-8357

E-mail: toyo.14@cnt.showa-u.ac.jp

Website: <http://showa-masui.jp/>

6. 麻酔科医資格取得のために研修中に修めるべき知識・技能・態度について

① 専門研修で得られる成果(アウトカム)

麻酔科領域の専門医を目指す専攻医は、4年間の専門研修を修了することで、安全で質の高い周術期医療およびその関連分野の診療を実践し、国民の健康と福祉の増進に寄与することができるようになる。具体的には、専攻医は専門研修を通じて下記の4つの資質を修得した医師となる。

- 1) 十分な麻酔科領域、および麻酔科関連領域の専門知識と技能
- 2) 刻々と変わる臨床現場における、適切な臨床的判断能力、問題解決能力
- 3) 医の倫理に配慮し、診療を行う上での適切な態度、習慣
- 4) 常に進歩する医療・医学に則して、生涯を通じて研鑽を継続する向上心

麻酔科専門研修後には、大学院への進学やサブスペシャリティー領域の専門研修を開始する準備も整っており、専門医取得後もシームレスに次の段階に進み、個々のスキルアップを図ることが出来る。

② 麻酔科専門研修の到達目標

国民に安全な周術期医療を提供できる能力を十分に備えるために、研修期間中に別途資料麻酔科専攻医研修マニュアルに定められた専門知識、専門技能、学問的姿勢、医師としての倫理性と社会性に関する到達目標を達成する。

③ 麻酔科専門研修の経験目標

研修期間中に専門医としての十分な知識、技能、態度を備えるために、別途資料麻酔科専攻医研修マニュアルに定められた経験すべき疾患・病態、経験すべき診療・検査、経験すべき麻酔症例、学術活動の経験目標を達成する。

このうちの経験症例に関して、原則として研修プログラム外の施設での経験症例は算定できないが、地域医療の維持など特別の目的がある場合に限り、研修プログラム管理委員会が認めた認定病院において卒後臨床研修期間に経験した症例のうち、専門研修指導医が指導した症例に限っては、専門研修の経験症例数として数えることができる。

7. 専門研修方法

別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた1) 臨床現場での学習、2) 臨床現場を離れた学習、3) 自己学習により、専門医としてふさわしい水準の知識、技能、態度を修得する。

8. 専門研修中の年次毎の知識・技能・態度の修練プロセス

専攻医は研修カリキュラムに沿って、下記のように専門研修の年次毎の知識・技能・態度の到達目標を達成する。

専門研修1年目

手術麻酔に必要な基本的な手技と専門知識を修得し、ASA 1～2度の患者の通常の定時手術に対して、指導医の指導のもと、安全に周術期管理を行うことができる。

専門研修2年目

1年目で修得した技能、知識をさらに発展させ、全身状態の悪いASA 3度の患者の周術期管理やASA 1～2度の緊急手術の周術期管理を、指導医の指導のもと、安全に行うことができる。

専門研修3年目

心臓外科手術、胸部外科手術、脳神経外科手術、帝王切開手術、小児手術などを経験し、さまざまな特殊症例の周術期管理を指導医のもと、安全に行うことができる。また、ペインクリニック、集中治療、救急医療など関連領域の臨床に携わり、知識・技能を修得する。

専門研修4年目

3年目の経験をさらに発展させ、さまざまな症例の周術期管理を安全に行うことができる。基本的にトラブルのない症例は一人で周術期管理ができるが、難易度の高い症例、緊急時などは適切に上級医をコールして、患者の安全を守ることができる。

9. 専門研修の評価（自己評価と他者評価）

① 形成的評価

- 研修実績記録：専攻医は毎研修年次末に、専攻医研修実績記録フォーマットを用いて自らの研修実績を記録する。研修実績記録は各施設の専門研修指導医に渡される。
- 専門研修指導医による評価とフィードバック：研修実績記録に基づき、専門研修指導医は各専攻医の年次ごとの知識・技能・適切な態度の修得状況を形成的評価し、研修実績および到達度評価表、指導記録フォーマットによるフィードバックを行う。研修プログラム管理委員会は、

各施設における全専攻医の評価を年次ごとに集計し、専攻医の次年次以降の研修内容に反映させる。

② 総括的評価

研修プログラム管理委員会において、専門研修4年次の最終月に、専攻医研修実績フォーマット、研修実績および到達度評価表、指導記録フォーマットをもとに、研修カリキュラムに示されている評価項目と評価基準に基づいて、各専攻医が専門医にふさわしい①専門知識、②専門技能、③医師として備えるべき学問的姿勢、倫理性、社会性、適性等を修得したかを総合的に評価し、専門研修プログラムを修了するのに相応しい水準に達しているかを判定する。

10. 専門研修プログラムの修了要件

各専攻医が研修カリキュラムに定めた到達目標、経験すべき症例数を達成し、知識、技能、態度が専門医にふさわしい水準にあるかどうかを修了要件である。各施設の研修実施責任者が集まる研修プログラム管理委員会において、研修期間中に行われた形成的評価、総括的評価を元に修了判定が行われる。

11. 専攻医による専門研修指導医および研修プログラムに対する評価

専攻医は、毎年次末に専門研修指導医および研修プログラムに対する評価を行い、研修プログラム管理委員会に提出する。評価を行ったことで、専攻医が不利益を被らないように、研修プログラム統括責任者は、専攻医個人を特定できないような配慮を行う義務がある。

研修プログラム統括管理者は、この評価に基づいて、すべての所属する専攻医に対する適切な研修を担保するために、自律的に研修プログラムの改善を行う義務を有する。

12. 専門研修の休止・中断、研修プログラムの移動

① 専門研修の休止

- 専攻医本人の申し出に基づき、研修プログラム管理委員会が判断を行う。
- 出産あるいは疾病などに伴う6ヶ月以内の休止は1回までは研修期間に含まれる。
- 妊娠・出産・育児・介護・長期療養・留学・大学院進学など正当な理由がある場合は、連続して2年迄休止を認めることとする。休止期間は研修期間に含まれない。研修プログラムの休止回数に制限はなく、休止期間が連続して2年を越えていなければ、それまでの研修期間はすべて認められ、通算して4年の研修期間を満たせばプログラムを修了したものとみなす。
- 2年を越えて研修プログラムを休止した場合は、それまでの研修期間は認められない。ただし、地域枠コースを卒業し医師免許を取得した者については、卒後に課せられた義務を果たすために特例扱いとし2年以上の休止を認める。

② 専門研修の中断

- 専攻医が専門研修を中断する場合は、研修プログラム管理委員会を通じて日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会へ通知をする。

- 専門研修の中断については、専攻医が臨床研修を継続することが困難であると判断した場合、研修プログラム管理委員会から専攻医に対し専門研修の中断を勧告できる。

③ 研修プログラムの移動

- 専攻医は、やむを得ない場合、研修期間中に研修プログラムを移動することができる。その際は移動元、移動先双方の研修プログラム管理委員会を通じて、日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会の承認を得る必要がある。麻酔科領域研修委員会は移動をしても当該専攻医が到達目標の達成が見込まれる場合にのみ移動を認める。

13. 地域医療への対応

本研修プログラムの連携施設には、地域医療の中核病院としての東京労災病院、静岡済生会総合病院、広島市立広島市民病院など幅広い連携施設が入っている。医療資源の少ない地域においても安全な手術の施行に際し、適切な知識と技量に裏付けられた麻酔診療の実施は必要不可欠であるため、専攻医は、大病院だけでなく、地域での中小規模の研修連携施設においても一定の期間は麻酔研修を行い、当該地域における麻酔診療のニーズを理解する。

14. 専攻医の就業環境の整備機能(労務管理)

研修期間中に常勤として在籍する研修施設の就業規則に基づき就業することとなります。専攻医の就業環境に関して、各研修施設は労働基準法や医療法を順守することを原則とします。プログラム統括責任者および各施設の研修責任者は専攻医の適切な労働環境(設備、労働時間、当直回数、勤務条件、給与なども含む)の整備に努めるとともに、心身の健康維持に配慮します。

年次評価を行う際、専攻医および専門研修指導医は研修施設に対する評価(Evaluation)も行い、その内容を専門研修プログラム管理委員会に報告する。就業環境に改善が必要であると判断した場合には、当該施設の施設長、研修責任者に文書で通達・指導します。